

■二輪車販売の実務と情報

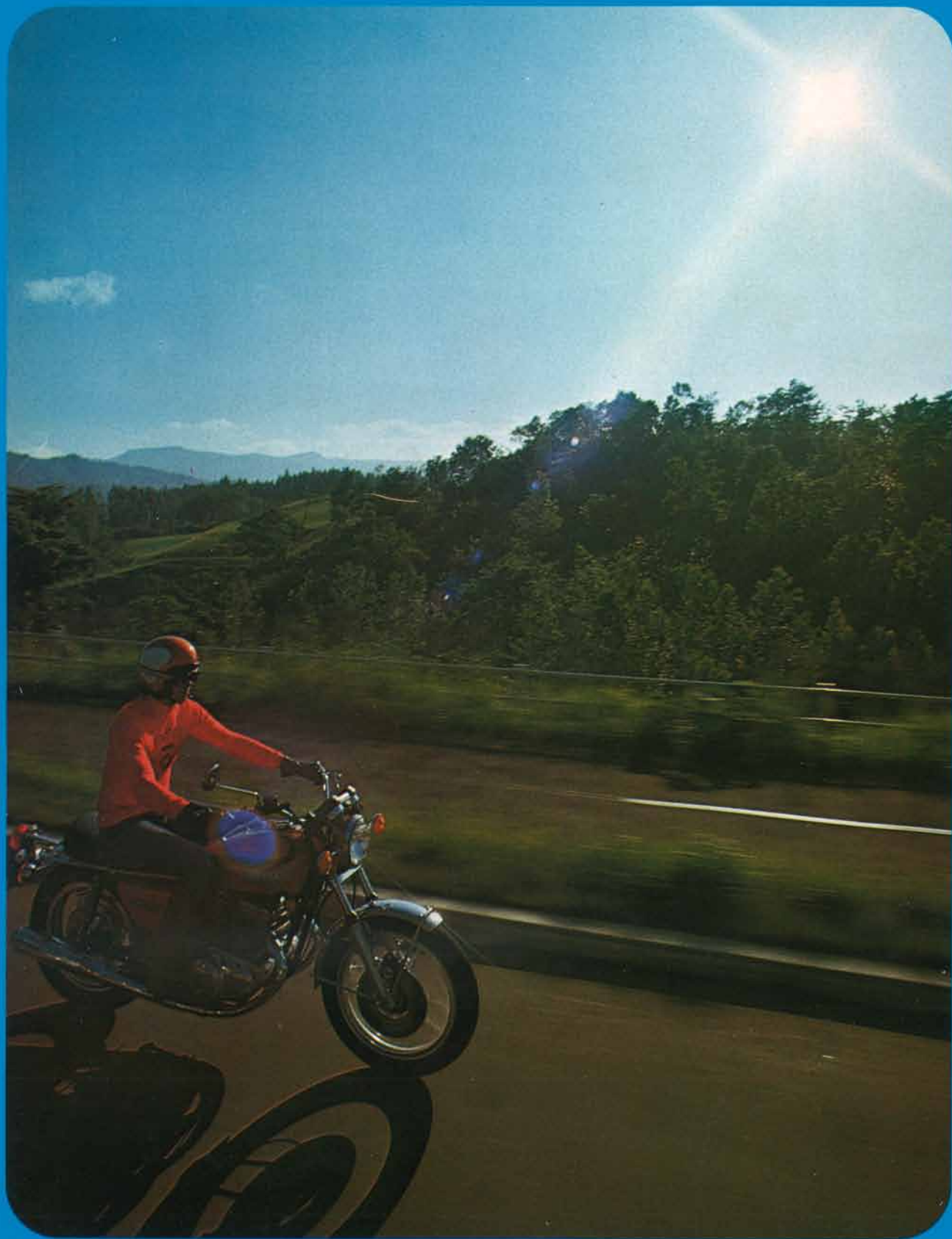
ヤマハニュース

YAMAHA NEWS NO.111

'72

9

SEP.



特集

盛夏のSL活動ツーリング&オートキャンピング

9月のス。ホーツレジャーハイライト

スケジュールは、天候その他の事由により変更されることがあります。事前に連絡先にお問合わせください。

第一回「ヤマハ グランドスポーツ フェスティバル」の開催にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

おかげさまでYGSFは大盛況のうちに終了いたしました。

YGSFで前半戦をしめくくったトレール杯争奪モトクロス選手権シリーズは、九月の声とともに終盤戦にはいり、いよいよお客さまの意気も盛り上がってくるころです。

また、残暑がつづくとはいえ、北の地方から日一日と秋の色が濃くなり、ツーリングなどには絶好の季節。

夏から秋へ——
季節の変わり目に、お客さまと、お客さまの車の管理もお忘れなく——

1 金
2 土
3 日
4 月
5 火
6 水
7 木
8 金
9 土

	▶競技会	▶会場	▶主催	▶連絡先
10 日	TCMS浜松第4戦	伊佐地特設コース	ヤマハ浜松	(0534)54-8411
11 月	TCMS岐阜第6戦	各務原青少年スポーツランド	柳原モータース	(0582)63-9126
12 火	TCMS北陸第5戦	トレールランド福井	ヤマハ北陸福井営業所	(0776)21-1451
13 水	TCMS広島第4戦	トレールランド広島	ヤマハ発動機広島店	(0822)82-4111
14 木	TCMS和歌山第4戦	トレールランド和歌山	ヤマハ和歌山	(0734)71-2811
	TCMS京滋第4戦	トレールランド八日市	小島エンジニアリング	(075)802-5080

15 金 敬老の日

16 土				
17 日	TCMS東北第7戦青森県大会	トレールランド野辺地	ヤマハ発動機青森営業所	(0177)75-3041
18 月	関東甲信越TCMS・Bブロック第6戦	未定	TCMS東京事務局	(03)572-2021
19 火	関東甲信越TCMS・Cブロック第7戦	未定	TCMS東京事務局	(03)572-2021
20 水	TCMS兵庫第4戦	トレールランド淡路	ヤマハ兵庫	(078)251-3561
21 木	TCMS山口第4戦	トレールランド山口	佐々木モータース	(0836)21-8181
22 金	TCMS四国最終戦	トレールランド高松	ヤマハ発動機四国支店	(0878)31-1661
	TCMS九州第5戦	牧の原トレールランド	ヤマハ南九州	(0992)68-5101

23 土 秋分の日	関東甲信越TCMS・Aブロック第7戦	未定	TCMS東京事務局	(03)572-2021
-----------	--------------------	----	-----------	--------------

24 日	関東甲信越TCMS・Dブロック第6戦	トレールランド赤谷	TCMS東京事務局	(03)572-2021
25 月	TCMS北陸第6戦	夢の平スキー場または山田温泉牛岳スキー場	ヤマハ北陸富山営業所	(0764)32-3509
26 火	TCMS岡山第4戦	トレールランド岡山	ヤマハ岡山	(0862)41-1803

27 水
28 木
29 金
30 土

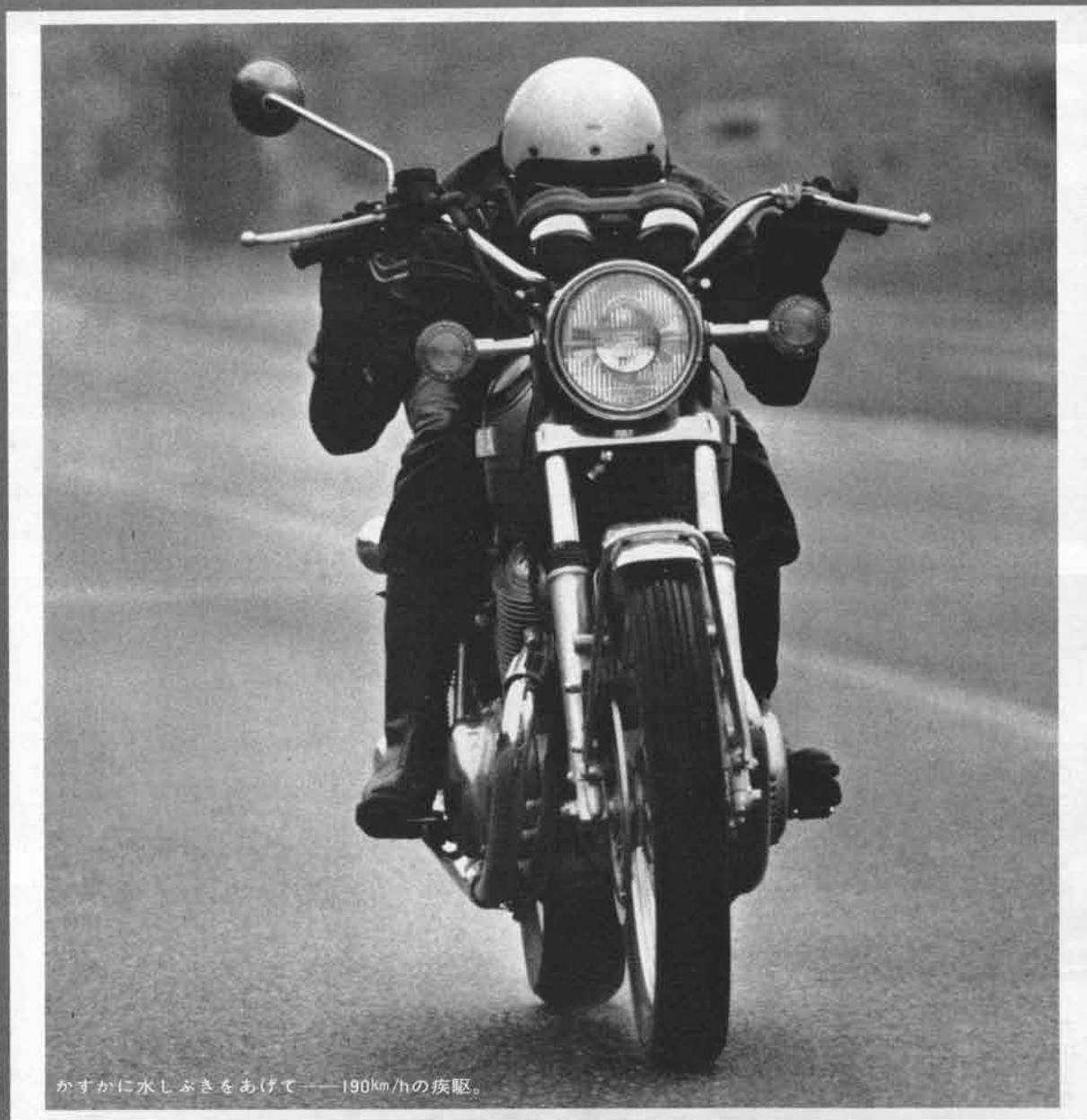
10月				
1 日	TCMS東北第8戦福島県大会	トレールランドいわき	いわき営業所	(0246)23-1710
8 日	関東甲信越TCMS・Bブロック第7戦	トレールランド下田	TCMS東京事務局	(03)572-2021
10 火 体育の日	TCMS北陸第7戦	トレールランド金沢	ヤマハ北陸	(0762)63-0256
	TCMS全道選手権大会	テイネオリンピック	北海道ヤマハ	(011)641-2711
	TCMS関東大会	未定	TCMS東京事務局	(03)572-2021
	TCMS岐阜第7戦	数河高原	高山FA会	(0577)32-5026

10月

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

体育の日

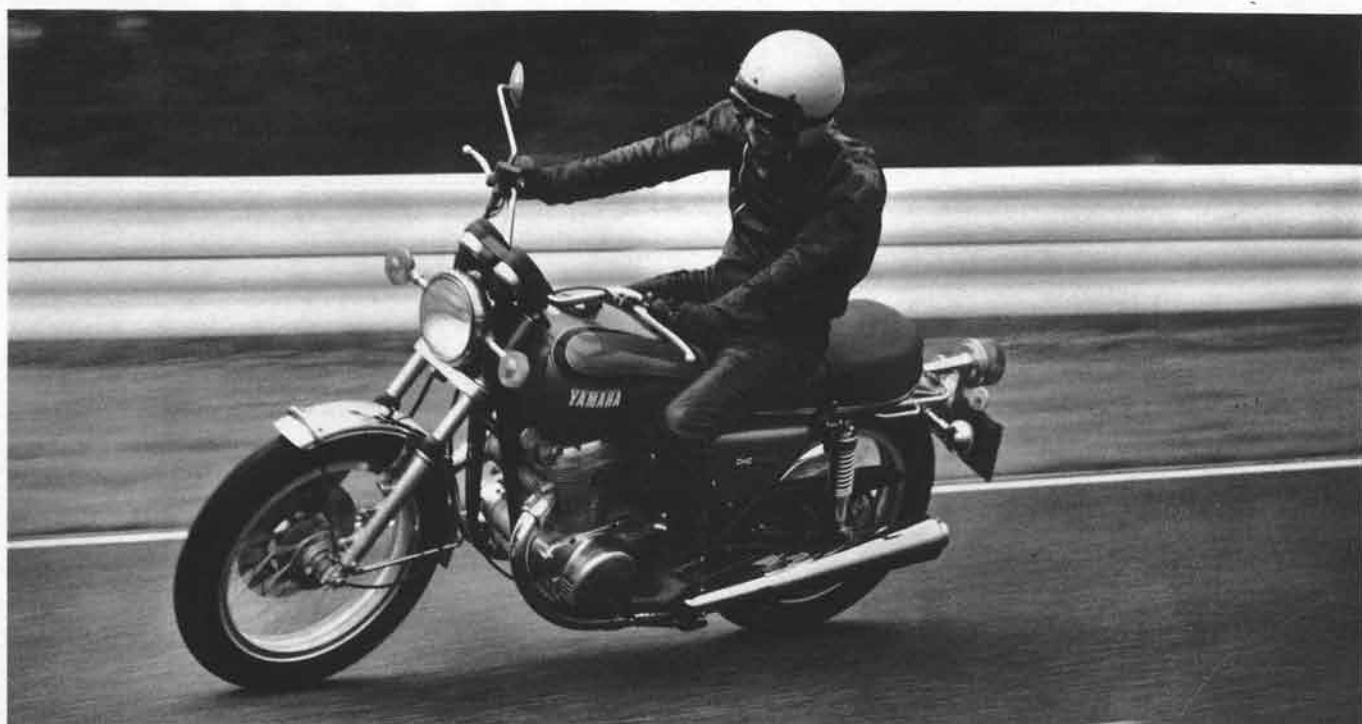
専門誌ベテラン・ライダーがTX750を試乗 その印象は“風”のフィーリング



かすかに水しぶきをあげて——190km/hの疾駆。

二輪の専門誌といえ
ば、『オートバイ』誌
と『モーターサイクリ
スト』誌が両横綱。そ
の二大誌のベテラン・
ライダーが、全長五・
二四五キロのヤマハコ
ースを舞台に、「TX
750」の最初の試乗
を行なった。

常に冷静な目と、公
正な判断でレポートを
つづる専門誌のベテラ
ン・ライダーがどのよ
うな評価をくださるか興
味のあるところだが、
試乗を終えた最初の印
象は、「風」のフィーリ
ングをもつTX750
ということであった。



▲最初の1~2周を軽く流して、クルマとコースを知る。テスト・ランはクルマをうけとったときからはじまっているのだ。

◀「すでにご存知でしょうか…」と、全長5,245m、20Rのヘヤピンを含む変形8の字型のヤマハコースの説明をうけて、いざスタート。

専門誌『オートバイ』、『モーターサイクリスト』の二大誌が「TX750」の最初の試乗にヤマハコースを訪れたのは八月の下旬のこと。いつもなら、青い空に真赤な太陽がキラキラと輝いているのだが、当日は折悪しく前線の通過があり、朝のうちは雨模様で、コースは濡れていた。しかし、晴れ間はみせないまでも、午後には雨もあがってコースはすっかり乾燥、まずまずのコンディションがつけられた。

このような中で加速性能、最高速度性能、コーナリング特性、低・中速走行、スラロームなど、走りを主体にそれぞれの性能と操縦性、安定性のテスト、またキックやセンタースタンドのあげおろし、各種スイッチの操作およびライディングポジションや一連の取回しについてのテスト・ランはすすめられた。

またエンジンも分解され、もつとも大きな特徴の一つであるバイブレス機構のバランスの働き、公害防止のPCV装置など二輪車としては初めての技術について、さらに車体関係ではレーサー仕様のフレーム構成をはじめ、リザーブライティング方式のヘッドライト、ストップランプ切れやブレーキライニング摩耗を知らせるパイロット装置など、これまたユニークな数々の新技術について、エンジン設計、車体設計、技術企画、営業技術の各担当者との間で熱心な質疑応答が行なわれテスト・ランは終了した。

なお、このテスト・リポートは両誌の10月号に掲載される予定となっている。

TX750



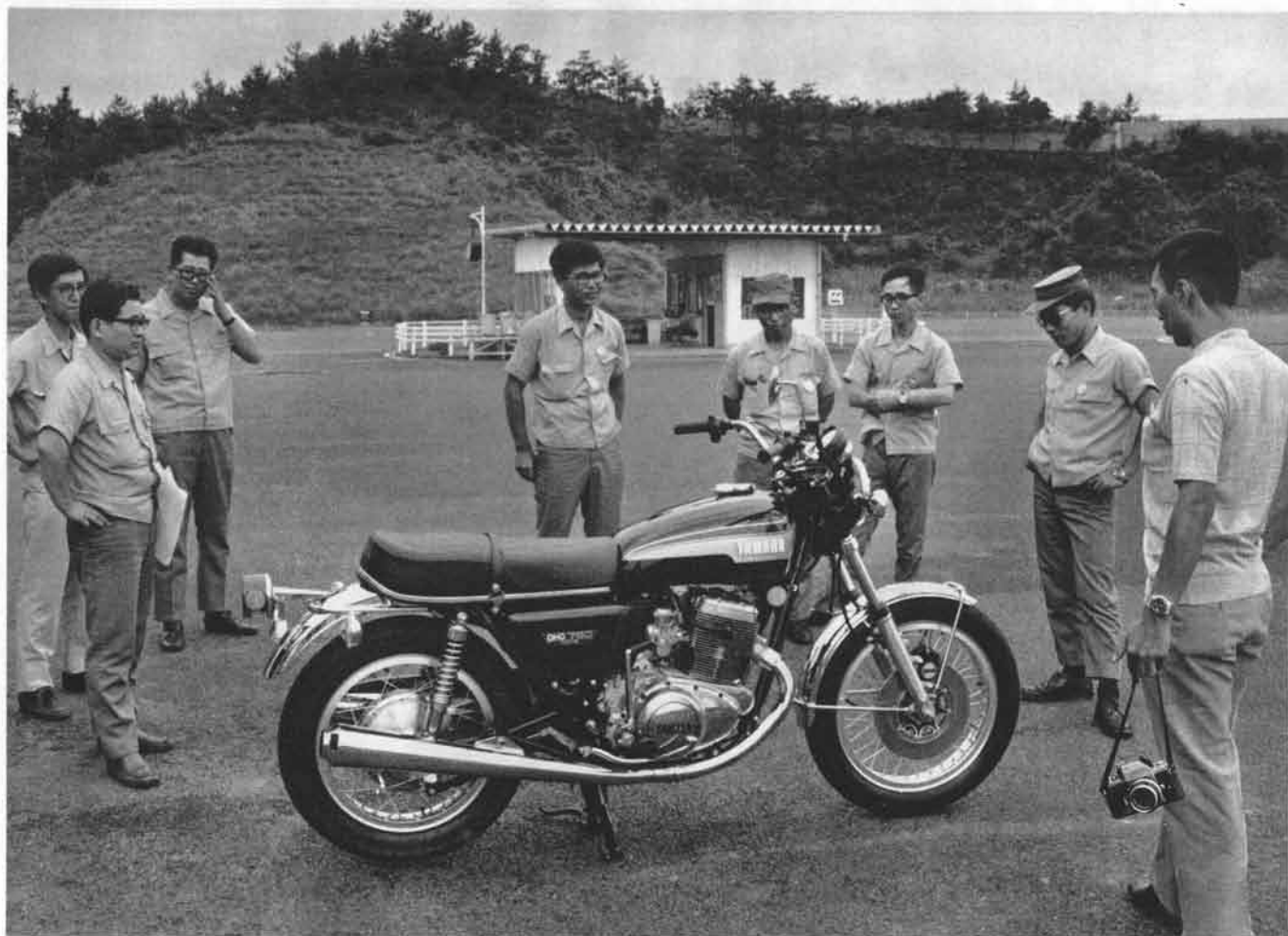
▼「そろそろ行こうか」「お先にどうぞ」はやる心をおさえるかのように、ゆっくりと身仕度をととのえる。



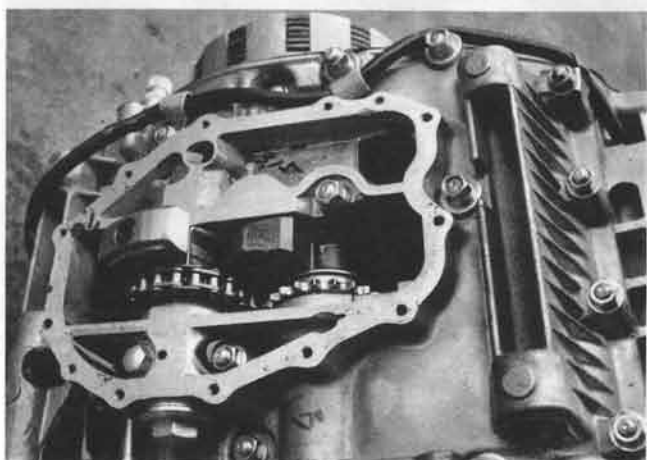
◀1.4キロにおよぶ直線路を利用して最高速度テスト。左手は燃料タンクに、背はびったりふせての迫力ある走行場面。

▼堂に入った走りっぷり。専門誌のベテラン・ライダーをのせて快調に走るTX750のフォームは流麗だ。





▲「TX750」を前に、エンジン設計、車体設計、技術企画、営業技術の各担当者と語る。



▲これが注目の balancer。クランクシャフト回転によって発生する振動の波を、ふたつの balancer が回転して打ち消す。

「ウー、これがバイブレス機構の balancer か」実物を前にして、熱い空気が取材陣をつつむ。



TX750



▲テスト・ランを終えて熱心な質疑応答。取材したり、されたり、提案ありで、アットランダムに話題はつづく。

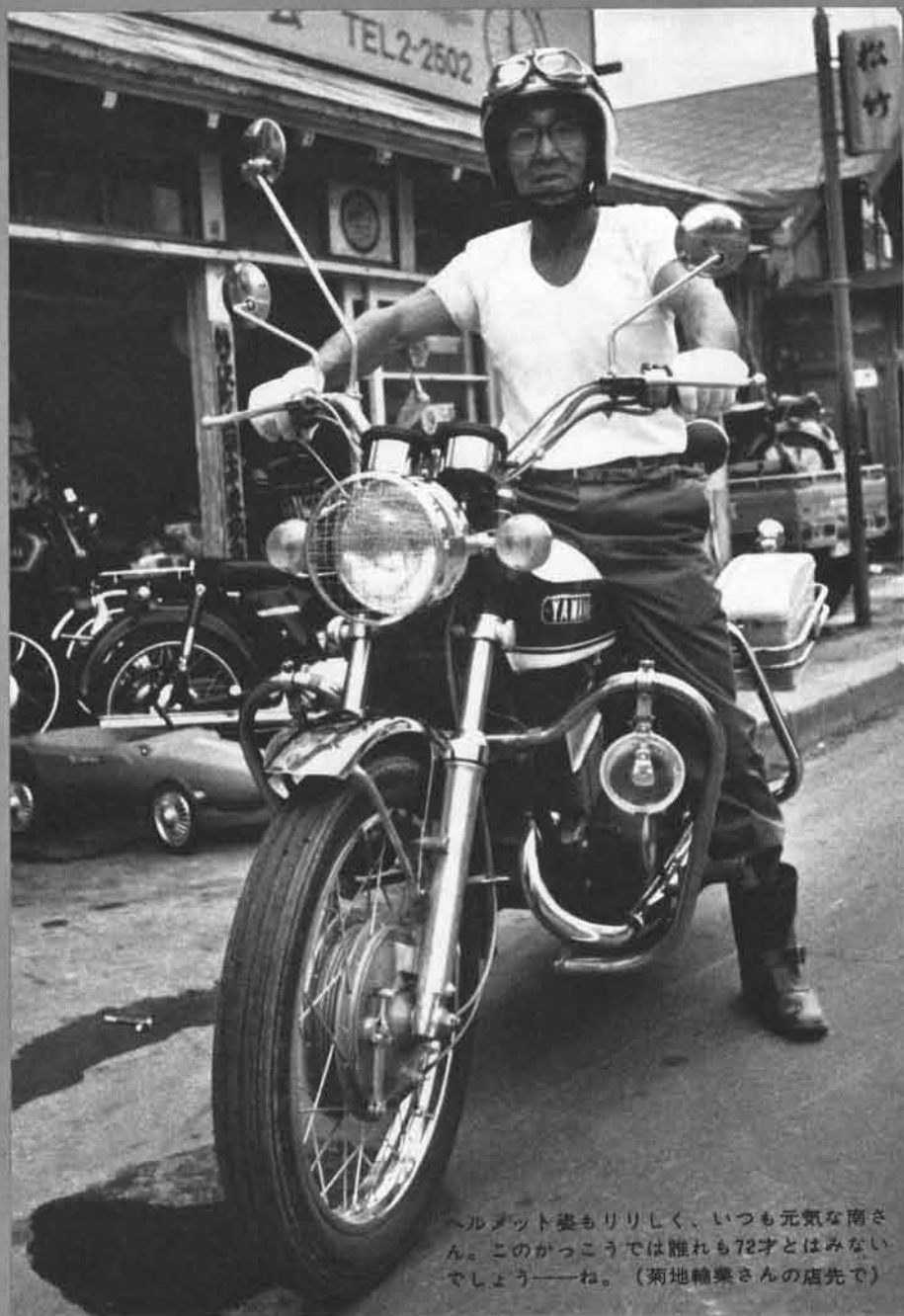
トップチューブ、ダウンチューブとも、それぞれダブルになってエンジンを包むようにのせるレーサー仕様のフレーム構成。



専門誌のベテラン・ライダー兼スーパー記者として著名な取材陣。右より横内一馬氏（オートバイ誌）、いわたげん氏（モータージャーナリスト）、大光明克征氏（モーターサイクリスト誌）。

オートバイだよ 若さだよ!

◆72才でRX350を駆る《南慶次郎さん》



ヘルメット姿もリリしく、いつも元気な南さん。このかっこうでは誰れも72才とはみないでしょう——ね。(菊地輪業さんの店先で)

明治三十二年十一月
五日生れ。当年七十二
才の現役ライダーとい
えば、日本広しといえ
どもちよつと珍らしい
存在ではないでしょう
か。しかも愛車はスポ
ーツの本格派・RX
350
なのです。

ここに、私のお店の
大切なお客さま、南慶
次郎さんをご紹介します。
す。

(菊地輪業商会・菊地信九・
青森県西津軽郡鰺ヶ沢町・
鰺ヶ沢SLクラブ副会長)



乗物が大好きな南さん。やがては消え去るらしに、ふっとむかしを思い出じ、小休止（五能線鎌ヶ沢駅にて）



オートバイには若さがあるサ。夏の間はあついで、近在を走るときはTシャツ一枚でかくのごとく——だ。



黒と白のRX 350

老いても若い諸君には負けないゾ——と元氣いっぱい南さんが、初めてオートバイを手にしたのは昨年の春のこと。その昔、T型フォードをころがした経験はあるが、五年前に免許をとって以来のまったくの初心者としての出発である。

そのときの愛車はDX 250、しかし軽二と自二の速度制限差が気に入らないと、三ヶ月一〇〇kmの走行時にRX 350にチェンジ、これにはバッチリほれこんだ。難点はただ一つ、塗色の問題。南さんにとっては色が若すぎるということだけであった。これは黒と白の2トーンに変えることで解決、まるまる一年を過ぎたいまもキズひとつない新しさを誇って毎日を楽しく乗りまわしている。

お店でも いちばんの人気

南さんの自宅は私の店から三〇〇メートルほど離れたところにあつて、RX 350にまたがつてチョコチョコと遊びに見えるが、若いお客さまの人気のマト。ATのお客さま、FBのお客さま、メイトのお客さま、いろいろのお客さまの中で、やはり南さんはお父さん、おじいさん格としてよい仲間となつている。南さんを囲んであれこれ話はずむころには、いつしか南さんペースで店内は明るい笑い声に満ちあふれている。



「母さん、五所川原までいってくるヨ」「遅くならないでね」
南さんのウデには奥さまも全幅的な信頼をおいている。



愛車RXはいつもピカピカ。菊地輪業さんのご主人と世間話をかわす。大きなストップランプと3個あるバックミラーにご注目を。



ヘルメットを脱いで、おじいさん?に戻った南さん。
レンズ入りのゴーグルは自前のヒントでつくらせた。

若返り法の 第一条がこれさ

いつでしたか、南さんとこんな会話をもちたことがある。

——どうしてこんなに大きい、それもスポーツタイプを好まれるんですか。

「オートバイのデザインがいいからじゃ。オートバイそのものと、乗ったときのスタイルがいい。つまりカッコウがいいということじゃよ」

——トレールタイプはいかがですか。

「フレームの高さ、デザインはまあまあだけれど、山登りは趣味がないし、だからスポーツのいいというわけ……」

——失礼ですが、オートバイに乗られるについて、お家の人の反対があつたんじゃないですか？

「家の者はだれも心配しとらん。わしのウデ、無理をしない性格を信じているからう。酒もやらんし、タバコも止めたし……」

——オートバイの魅力というか、オートバイを乗りだすについて、それなりの理由があつたと思うんですが……

「機械もの、乗物は若いときから好きじゃつたからナ。年とっても、好きなものは変わらない、気ままに好きなことをする、それが年寄りの楽しみというものじゃ。」

——好きなオートバイに乗って、かつこうよくスピードを楽しむ、気持ちがいいゾー……」
——それにしても、オートバイに的を絞っ

オートバイだよ若さだよ!!



「こいつがあるかぎり、若さは失なわないよ」と、軽い身のこなしでつよいキックをふんでみせる南さん

たのは、なにか絶対的なものがあつたのじゃないのですか。

「ある、ある。当然ある（ちよっともつたいぶつた様子で）」

——それは、なんででしょうか。

「それは、自分では若返り法の第一条だと考えているからじゃ。どうしてかといえは、スポーツタイプのクルマに乗っているのはほとんどの人が十才台、二十才台の若人だ。若人は好きだし、オートバイを介して若い仲間と気安く話しあえる場所が出来るということには自然と自分の気持も若くなる。だから、スポーツ車は手ばなせないんじゃよ」

希望は大きく 長生きしようぜ

以上のように、気さくに、朗らかに話してくれる南さんです。

最近、たぶん冗談のつもりでしょうがTX 750に目をつけている様子で、「今度はTX 750にしようかな!」などといって、若い人をおどろかせたりしている。

今後の抱負をお尋ねしたら、「せいぜい長生きして、生きているかぎりいろいろと新しいオートバイに乗って、好きなところを気ままに走ってみたい」ということだった。

ヤマハフェスタの会場で、TX 750を半日もねばつた南さんのこと。案外、ちかちかTX 750に乗った元気いっばいの南さんを見かけることになるかも知れない。

こんにちは……
ヤマハ
……です



ゆったりと間口の広いショールーム

うちの看板は

スポーツレジャー

SLとヤマハ免許教室 それに“大将”だヨ

新潟県南魚沼郡塩沢町●(合)高喜屋輪店

スポーツレジャーの本拠で ガンバル若大将

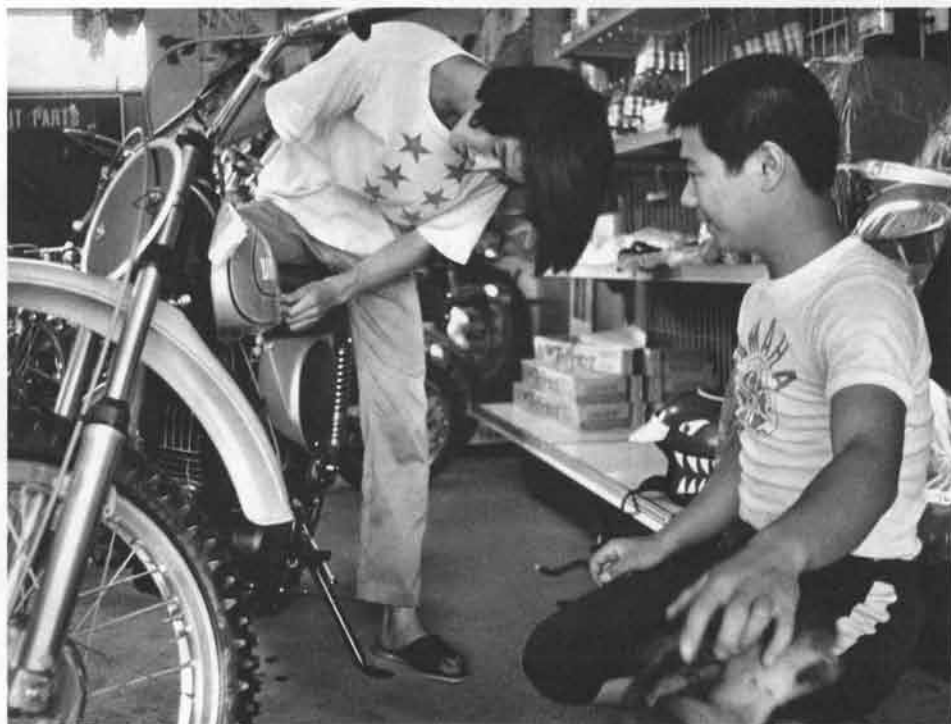
まず「大将」の活躍ぶりから伝えましょう。高橋店主は、和雄さんをいつもこう呼ぶのです。棚の上に並べた「大将」の数々の戦績を見てください。最近の価値あるトロフィーは「七二年・スノーモビル関東選手権第一位」「七一年及び七二年・上越国際スノーモビルグランプリ大会第一位」の三つに止めをさします。そして、林立するトロフィーは和雄さんたちのクラブ「ワールドトレイルメン」が獲得したモトクロス大会の戦利品です。

オフ・シーズンのスキー場は絶好のトレイルランド。湯沢、石打、六日町……温泉とスキーの「メッカ」に取り囲まれた雪国の里です。近在のヤマハトレイルランドは、長岡、赤谷、下田、六日町、高柳の五カ所、いずれも二〜三キロ級の良コースぞろい。ライダーたちの腕が鳴ります。

和雄さんはオートバイ仲間と語らってモトクロスチーム「ワールドトレイルメン」を結成しました。発会してからもう二年、MCF AJの公認チームです。現在メンバーは十人ですが、リーダーの和雄さんの「おとなしくて辛抱強い人柄が物を言って、よくまとまっているチーム」(特約店さんの話)に育ちました。

高橋店主は「ワールドトレイルメン」の広報部長兼報道部長兼不定期スポンサーです。

店先きでヤマハトレイルの整備に余念がない若者、その若者にむけて「おい、大将ッ、手を休めてチョット話しに上ってこいや」座敷から声を掛けたのは、この店の主人高橋幸雄さん(49歳)です。「大将」と呼ばれた若者は長男の和雄さん(21歳)です。ヤマハフレンド店・高喜屋輪店の経営は、このオヤジさんと長男・和雄さんの二人三脚で大きく発展しています。



来合わせたモトクロスメンバーとクルマの話はつきない。



国道17号線沿いの野立看板。

「いや、なに、入会希望者のオヤジのところへ行って説得するのがわたしの役目だよ。おめえとこの倅が、オートバイ・クラブなんて言う危ねエものに、うちの倅を誘いに来た、なんて文句を言う。ばかを言いなさんな、あんたは若い者のやつてることを本当に見てやしない。モトクロスをやつてる連中で、国道を暴走したがる奴がいましたか。モトクロスは基本から叩きこまなきや出来ない競技だから、一番安全なオートバイの乗り方なんだ。それに根性がある。若いうちは何か一つ物事に集中してエネルギーを発散させて、根性を鍛えなきやあダメ」

広報部長は、競技会のある日はカメラを肩から下げて、しんがりを走ります。だからその日は報道部長。

「だけど、なあ大将、もうそろそろクラブのリーダーは誰かに継いでもらう方がよくはないかい?」「うん、それは考えている。しかしまだレース経験が足りないなあ。今年は、みんなを出来るだけ沢山レースに出して、場馴れさせることが目標です。そうするうちに後継者が出てくれると思う」

クルマと「安全運転」をセツト販売

高橋さん父子が力を入れるもう一つの仕事は、ヤマハ運転免許教室です。

塩沢町は旧石打村、中之島、上田村、旧塩沢町の四町村が合併して生れた町ですが、お

得意はほとんど農家で、「足がわり」のヤマハメイトの需要が旺盛なところ。雪融けの春四月を待って、毎月一回、土曜日の夜、高喜屋輪店で免許教室がひらかれます。

毎回、受講者は五、六人程度。だから、インストラクターとの個人指導がみっちり行えます。希望者には高橋さん父子が二回、三回と「特訓」を引受けるので、改正後むつかしくなった二輪免許も合格率七十%という好成绩です。

「販売成績の方はどうですか」

「個人指導した人たちは、かならずヤマハを買ってくれます。それに二人に一人は、先にクルマを買ってから免許教室にやって来る」

「ずいぶん恵まれた商売の高喜屋輪店さんですが、新しくオートバイに乗るお客で、予算が少なければ、まず自店で十分整備した下取車に乗ってもらうという風に、気軽に乗れ、気やすく買える条件をつくる販売努力が見られます。」

「近頃大型車が出にくいという話も聞くが、ただ慢然とスポーツ車を売る、実用車を売るといった商売をしていたのでは、四輪に対抗して二輪独自の魅力を販売することは出来ないよネ。ウチでは、モトクロスと安全運転教室を二輪普及の二本の柱としてやっていく」

「オートバイスポーツ」と「安全」を販売するのが高喜屋輪店だと、熱弁をふるうオヤジさんのそばで黙ってうなずいている「大将」、安全運転普及活動には積極的です。「ワール



六日町駅前。夏は融雪パイプが撒水して涼しそう。



和雄さんの輝やかな戦果。



小手にかざすは「陸奥大掾三善長道」の銘刀。



好評を博した母校を訪ねての安全運転教室

ドトレールメン」の面々と一緒に母校塩沢商工高校を訪ね、二輪車安全運転の必要性をPRしたのが実を結び、去る六月三日は同校々庭に原付および自動二輪免許取得生徒百六十八人を集め、「塩沢商工OB主催」の安全運転教室を開催することができました。インストラクターに招いたのは、昨年の二輪車安全運転コンテスト全国大会で第一位を獲得した鈴木厚さん。最初あまり乗り気でなかった先生たちも、生徒たちの真剣な受講態度を見て認識を新たにしてくださった、と和雄さんは瞳をかがやかせて語ります。

スノーモビルで

新しい飛躍を

SLと言えば、これから大いに期待できる

のがスノーモビル。雪国のオートバイ販売は春四月から「お盆休み」までが山場です。秋風が立ち始めると、「いま買っても、あといくらも乗れないから来年にしようや」と買い控える人があります。冬場に向って販売戦線の担い手になってくれるのは、スノーモビル。高喜屋輪店では、ヤマハSL-292、S-350など新鋭機種十数台を、上越国際スキー場、大和スキー場へ納入済です。まだまだ需要が増えるのは確実なので、今年の冬は十二月から三月までびっしり四ヶ月間、高橋さん父子はスノーモビルの整備に追いつくられることでしょう。

「そろそろ、和雄さんにお嫁さんを見つけて手伝わせますかね？」

「とんでもない。女に商売に口を出させるような男は仕様がな。母ちゃんには家のことをしっかり守ってもらうんだ。そりゃそうと、大将、「ヤマハニュース」にうまく写真を撮ってもらえ。縁はどこに転つてるかわからな

いぞ」
長男が家業を継ぎ、次男新治さん（19歳）は学業をおえて東京へ就職、一人娘の京子さんは花も恥じらう十六歳です。「倅が店に出るようになって、若いお客がずいぶん増えた」と笑う高橋店主は、仕事の余暇には秘蔵の刀剣を鑑賞したり、泉水の鯉に餌をまく好々爺になりました。

<特集> 盛夏のSL活動

ツーリング&オートキャンピング



楽しいマス・ツアー 仲間同志のつよい連帯感が生れるのもこんなとき

規模の差こそあれ、今年の夏も各地で沢山のSL―スポートレジャー活動がくりひろげられました。ソロで日帰りツーリングからオートキャンプをつづけて五泊、六泊の長距離ツアー、たとえば九州から北海道へというつわ者も少なくなかったようです。

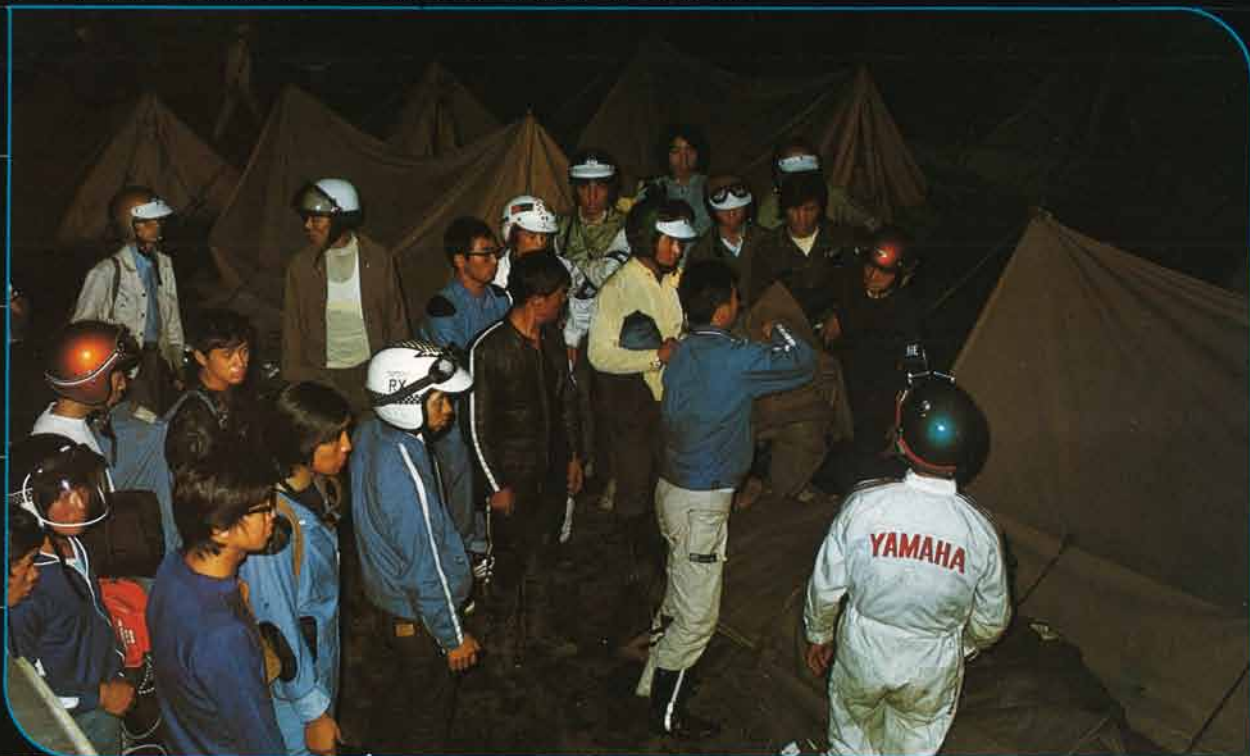
そして九月――。

残暑はいぜんとしてきびしいものがありますが、また秋も行楽の季節としてSL活動が盛んです。ここに、夏の行事として行なわれた各地のSL活動を紹介し、秋のお店の行事計画の参考に供する次第です。



交通量が多くとも少なくとも、正しい車間距離をとって左端を一行進行

ソーラ、キャンプの設営だ。シートは敷いたか、毛布は持ったか、班長は……



星空のもと、映画を楽しみ……

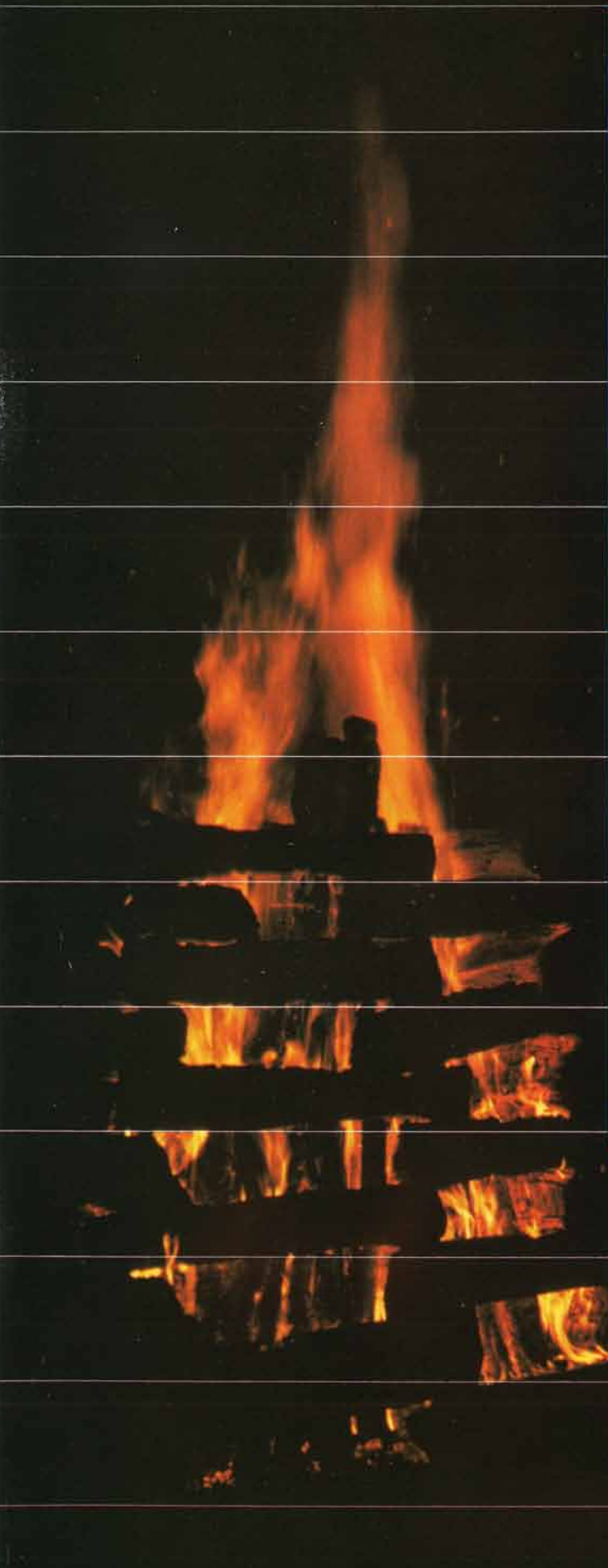


たき火を囲んでバーベキュー……

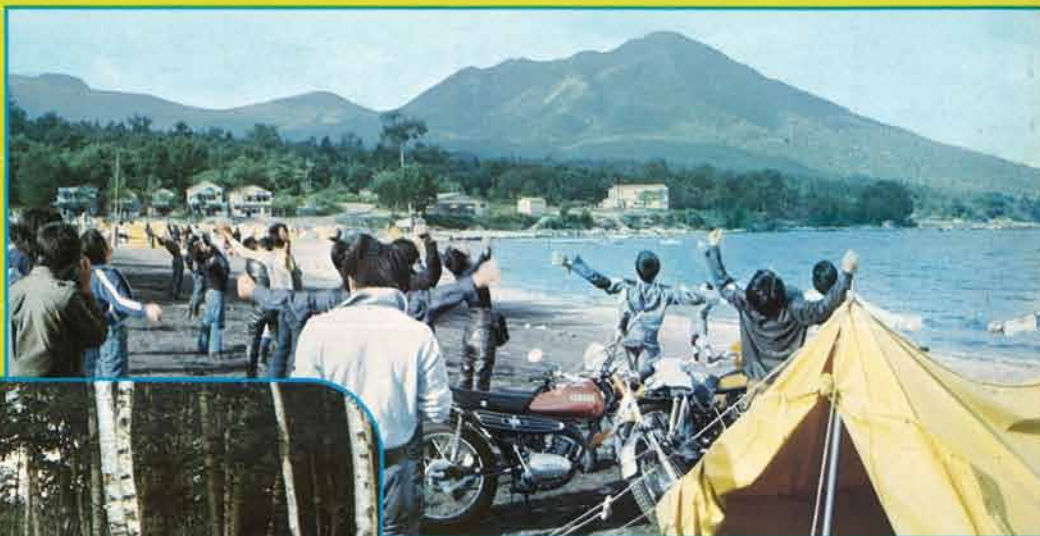


花火が夜空をこがして歓声が湧く





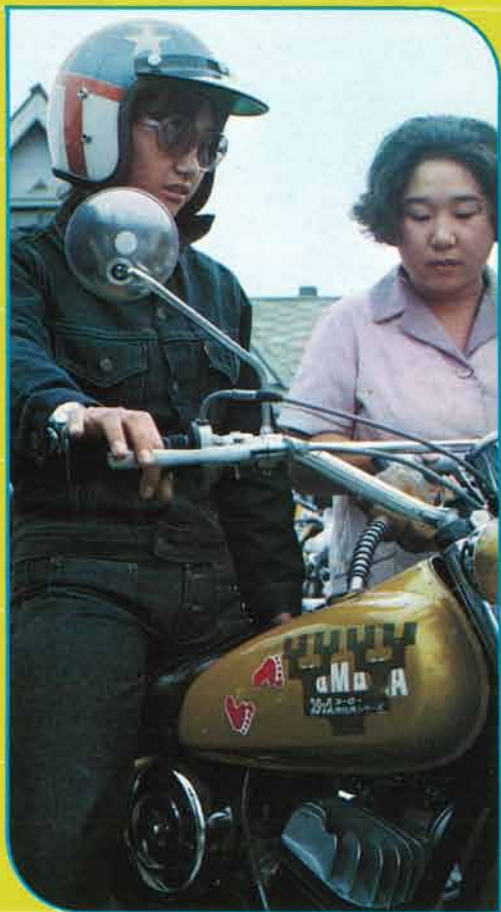
快い疲れに、いつしか夢とまどろむ



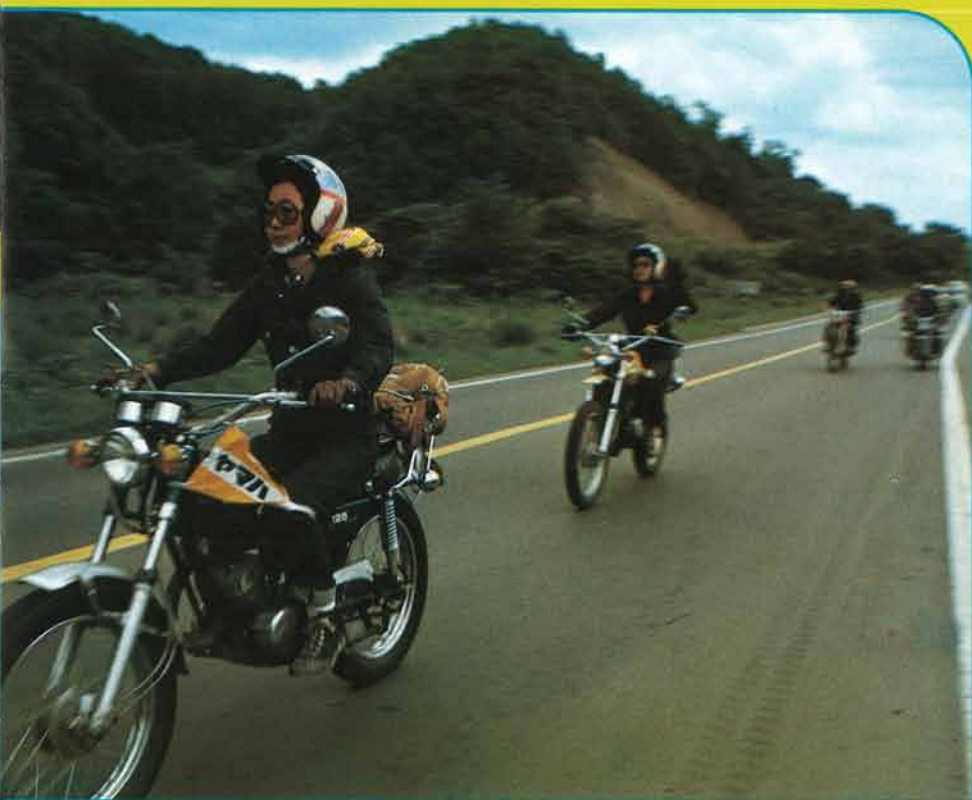
そう快な朝の訪れ。ラジオ体操に身体をほぐして今日もまた楽しいSL活動が始まる



うまい、ウマイ。弁当に舌つづみを打ち……



愛車にもいっぱいガスを満して



次の目的地へゴー

《特集》ツーリング&オートキャンプ活動

北に南に盛んな

いま全国に登録されているオートバイは九百万台を越えるとか――。

そして、休日にはどんなに少なく見積つてもこのうちの半分、四百五十万台はSLスポートレジャーの足として使われているといわれます。まさにブームです。

そのSL活動で、もつともポピュラーな行事といえばこれは遠乗り、ツーリングです。

オートバイを持った人なら、誰れもが一度は経験するSL活動がツーリングです。

このツーリングが、最近は若い人の間で大モテです。涼を求め、自然に接し、観光を楽しむなど、ソロで、グループで、日帰り、あるいはキャンプを兼ねたり、さまざまな形態でSLを楽しんでいます。

ここにご紹介するのはその一例。セールスキャンペーンの一環として、クラブ恒列の行事として、SL活動のミーティングとして開催されたツーリング風景です。今後のお店の行事の参考となれば幸いです。



TCMSのゼッケンを着用して、勢いのよいあいさつをおくっているのは名古屋・北営業所主催の「南四国一周ツーリング」参加のお客さま方



『南四国一周ツーリング』は、名古屋・北営業所が企画して行なわれた三、四月三ヶ月間の「サンフラワーセール」の新車購入のお客さまを対象として行なわれたものです。

コースは名古屋稲永埠頭から豪華フェリー「さんふらわあ」(一万トン級)に乗って高知桂浜へ。そこから鍾乳洞で有名な龍河洞を経て室戸岬へという南四国周遊です。

参加者総勢一三〇名、大半の人が新車を購入して初めてのツーリングであり、スポーツ車、トレール車、それに排気量の大小があるなど、食事や駐車を含めて厄介な問題がありました。販売店さんごとにグループ分けしてリーダーをおき、整然としたツアーで好評を浴びました。

◀名古屋から高知へは、豪華フェリー「さんふらわあ」号で。デッキチェアにふかぶかと腰をおろして夕陽をながめる



◀室戸岬は台風メッカ。折から南方洋上で発生した台風の子波が大きくなうねりとなって岬を洗っていた。



▲これへ土佐の高知の播磨屋橋……。うっかりしていると気付かず通りすぎてしまいそう。



南四国一周ツーリング



南国の海のまばゆいばかりの明るさ、藍さを右手に、室戸岬へと向う一行。交通量は少なく、まさに快適なツーリングだ

▼最年長50才の神谷さんと最年少16才の栗田くん。マシンも、ウデも、キャリヤもさまざまな人が加わるむずかしさをもつのがこうしたマス・ツーリングの特質だ。



「ヨーサコイ、ヨーサコイ……と。ゼッケンつけての余興が、あぁあのマシンの人かと親しさを増す。幹事役のグッド・アイデア。」



▲100台を越える大群となると、駐車するのも食事するのも一苦勞。進行係は事前によほどうまく連絡をとっておかなくてはならない。



ITCとは石井ツーリングクラブの略称。
 東京・四ツ木のヤマハフレンド店石井モーター販売さんのお客さまがあつまって自発的につくられたクラブで、発足してから四年のキャリアをもっている。

クラブの会則によれば、このクラブはオートスポーツを通じて心身を練摩すると共に、相互の親睦を計り、あわせて健全なオートスポーツの技術と交通道德の向上を目的としたもので、毎月一回の日帰りツーリングとミーティング、そして年に一回は泊りがけのビッグツアーを行なっている。これは先頃行なわれた二泊ツアーのスナップ。

今年の最大の行事とあって、石井社長さんも宿泊先でクラブの人々に合流した。

◀きょうの参加は19台20名。ようやく朝のあわただしさを取戻した町並みで小休止。どこでどのくらいの休みをとるか、マス・ツーリングでは重要な問題だ。



▲ITCのために、石井モーター販売さんでは事務所を提供している。これは朝まだきの出発前におけるミーティング。正面の壁には会員の名札がずらり掲示されている。

納涼・志賀高原ツーリング



ゴー、ゴー、ゴー！ きょうの油りは渋温泉。
適確な車間距離のもとに、みごとなコーナリ
ングをみせて快調なツアーがつづく。



▲長野県と群馬県の境にある渋峠で記念撮影。写真
ができてからまたひとさわぎあるのが楽しいんで～す。



なんと夏のまっさかりというのに渋峠ではストーブが
生かされていた。ほんとに寒かったし、あったかかった。



▲昼食は名物の“峠の釜めし。”といこうじゃな
いか——二代目の会長役江村スポーツリーダ
ーの提案にさっそくドライブ・インへと走る。



▲クラブ旗を横に石井社長のあいさつ。お次は楽しい宴会だ。

スポーツレジャーに新しい世界をもたらして好評のヤマハSLクラブが全国に発足してすでに二年目。同好の主があつまつてツーリングにキャンプにレース観戦に、あるいはヨットやモーターボートなど、水辺のレジャーを加えた盛り沢山の内容でますます大きく発展してきましたが、これは宮城、岩手、秋田、青森の東北四県のSLクラブ員百余人が一堂に会してのSL北海道ツーリングです。

ラリー形式で青森・浜町埠頭に集合して北海道に渡り、函館をふり出しに大沼公園、洞爺湖、札幌を経て、支笏湖モラップキャンプ場にテントを張り、さらに昭和新山、登別と遊んで、函館から青森に戻る。泊三日の長距離ツアーを楽しみました。



▲午前4時00分。無事函館に到着。船倉に勢いのよい排気音をコダマさせて北海道に上陸。船倉内では急加速、急減速は禁物。ツリルとやられる



11日午前零時。船倉に満パイのオートバイを▶のせて一路北海道へと船はすすむ。



▲さあ、いよいよ北海道だぞ！ 船内にゴロ寝をきめこんだSL仲間。女性の参加もあって楽しい雰囲気。

SL北海道ツーリング

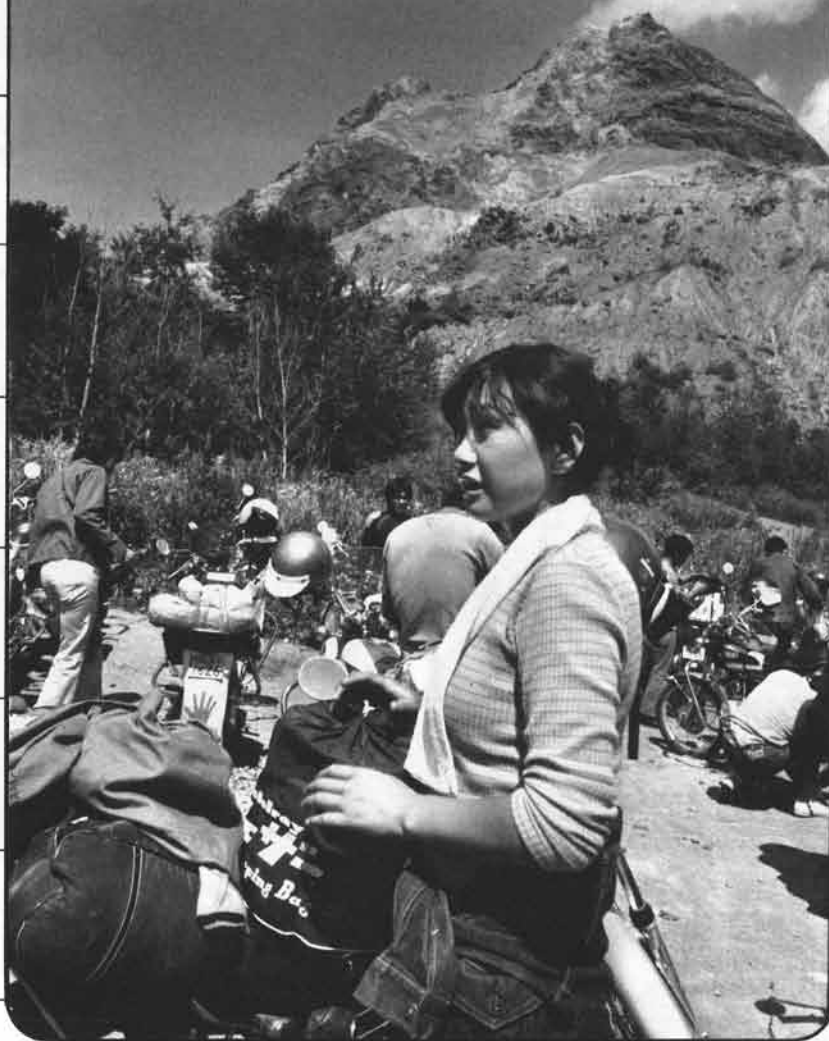


▲北海道名物はトウキビにこのジャガイモ。東北のもウマイが、北海道のもまた格別。



▲オロフレ峠で記念のバチリ。みんな満足、幸せです。

SL北海道ツーリング



▲昭和新山をバックにホッと一息。ホホをよこぎる風が涼しい。

▼オロフレ峠を下って登別へ。一列に、きれいに
ならんで、みごとなマス・ツーリング。



▲起床、起床。キャンプの朝は早い。

男ふたりなんの相談、いやキャンプファイヤーの▶
明りを浴びて得意のノドを披露している場面です。



第2回 東京モーターサイクルショー開く



①会場中央の旧車コーナーには、オートバイにスポーツ車時代を告げたYDS1(左)とYES2が……。

②これがご存知「赤トンボ」YAS1。オートバイ=二輪トラックの時代に、これだけのスポーツがあったのだ。

③こりゃーすごい。XS650のエンジンを使ったこのチョッパー。もちろん造型美を追求した作品、街なんか走れないのは当然。

④最近の静かなトライアルブームで日本にも本格的トライアラーもそくそく誕生。これはDT250をベースにしたもの。



こととして2回目を迎えた東京モーターサイクルショー(主催モーターサイクルファン会の会)が、7月29日~31日の3日間、東京晴海の国際貿易センターでひらかれました。内外の旧車、珍車からマニアがウデにヨリをかけてつくり上げたレーサー、モトクロッサー、トライアラー、そしてチョッパーが一堂に勢ぞろい。

観客は「おや日本にもこんなオートバイが

あったのか!」とか「やっぱりオートバイは機械なんだなァー」などと珍しいクラシックバイクに見入っていました。

ヤマハ第一号車「YAS1」やスポーツはヤマハの先達「YDS1」の前では、「これが栄光の赤トンボか!」とひとしきり足をとめて見つめている人も多く、会場は終日オートバイ好きの若者たちでにぎわいをみせていました。

MXスペシャル・モトクロス世界GPに二



マシンの開発データを得ることを主な目的としてヤマハは、今年のモトクロス世界選手権シリーズの二五〇cc、五〇〇cc級に、H・アンダーソン、C・ハマーグレン、J・ベルトーヘンのチームでフルエントリーし、両級各ラウンドとも常に上位に入賞、予想以上の戦績を残してきました。

八月十三日(日)に行われた二五〇cc級シリーズ第十戦のスウェーデンGPでは地元出身のアンダーソンが、また同日の五〇〇cc級十一戦目のルクセンブルグGPでは、ベルギ

ーの新鋭選手ベルトーヘンが、それぞれ総合優勝をするという素晴らしい成果をあげました。

今年のシリーズを通じて実証されたヤマハマシンの安定した性能からいって、来年のシリーズは有力なチャンピオンシップコンテナーになることは間違いない——とはある専門家のヤマハ評です。

写真は五〇〇cc級のベルトーヘン選手。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
世界GP 250cc級ロード

《個人タイトルは

サーリネン選手に》



先に三年連続、通算八度目のメーカー選手権をヤマハにきめた世界GP 250cc級ロードレースの個人選手権は、J・サーリネン選手が、R・ゴールド選手が、その行方が興味の焦点となっていました。第十二戦フィンランドGPで地元出身のサーリネン選手が優勝を果し、この結果、同選手がレース歴初の世界GP 250cc級のチャンピオンとなりました。

なおレースは第十三戦スペインGPを残していますが、第十戦チェコGPはサーリネン選手、第十一戦スウェーデンGPはゴールド選手と星を分け合い、一点差を争ってきたものです。写真は喜びのJ・サーリネン選手。

◆南米にトレールランドが完成〈ブラジル〉



これまで専用のモトクロス場のなかったブラジルでは、最近のモトクロスファンの急増に伴い、常設のモトクロス場の必要性に迫まられていましたが、現地のヤマハの総代理店、ヤマハ・モーター・ド・ブラジルはこの程、サンパウロ郊外にブラジルで最初の立派なトレールランドを建設し、六月十一日にコース開きと同時に、第一回サンパウロ地方選手権が行われました。



このトレールランドはサンパウロとリオ・デ・ジャネイロとを結ぶハイウェイに面して、サンパウロから約二〇kmの所にあり、総面積は十八万平方メートルを有し、六百台収容の駐車場もあります。コースは全長一・六km、幅はスタート地点が五〇メートル、平均七メートルとなっております。このコース初のレースは、一二五ccと二五〇ccのクラスで二十五台が出場して行われ、約八千人の観衆が集まるなど大成功でした。また地元のマスコミは、新聞、TV、雑誌を通じてブラジルで初めての常設のトレールランドと、そこで行われた白熱したレースの様様を大々的に報じていました。

700台が参加して 日本で初の本格的 エンデュロ開催!!



700台が3組に分かれてのスタート風景。

エンデュロ(長距離耐久モトクロス)は、アメリカで特に盛んに行われ、「ビッグベアラン」や「ミント400」などという有名なレースがいくつも開催されていますが、先ごろ日本でも初の本格的エンデュロが、水戸射爆場で開かれました。

七月三十一日に行われた「シルバー200」がこれで、米空軍創立25周年を記念して米軍横田基地の「横田モーターサイクルC」と日本の「オールジャパンモーターサイクルC」が共同主催したものです。

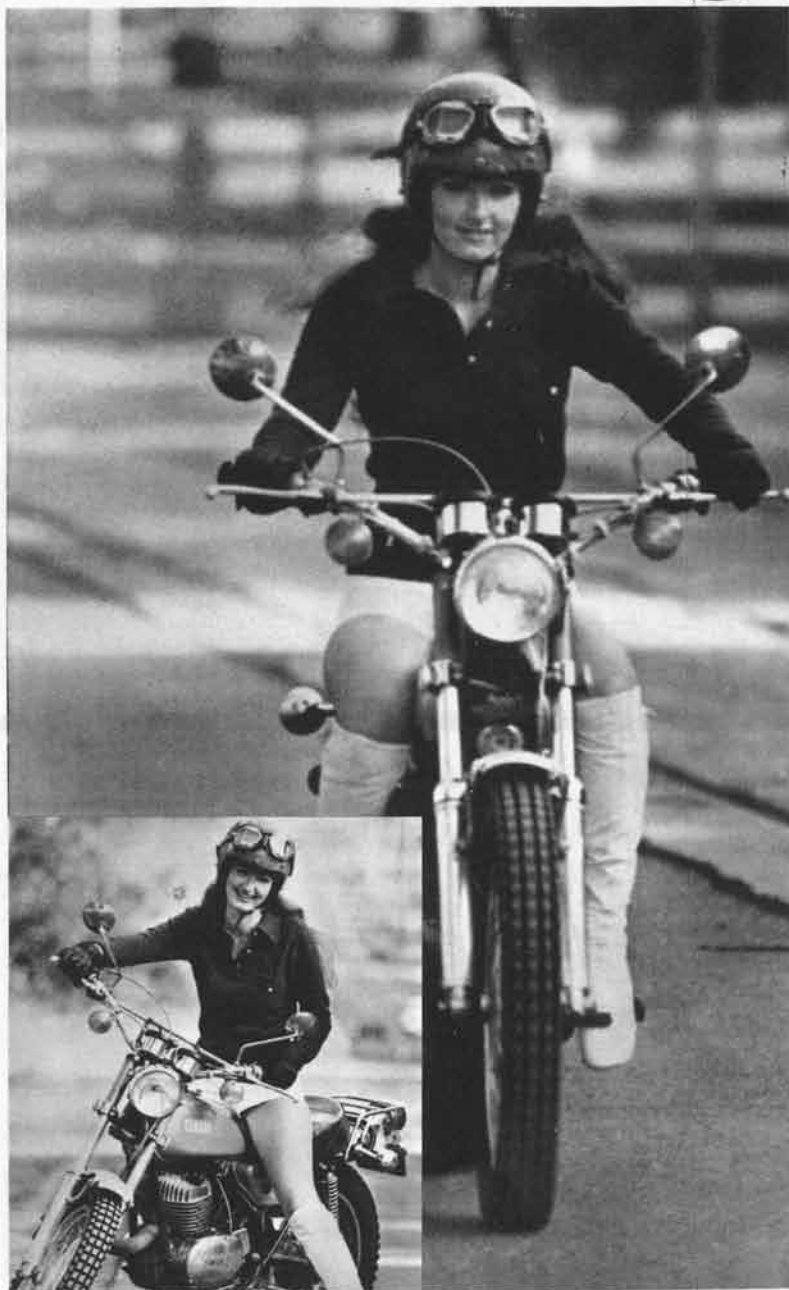
レースは、まっ平の草原、松林の中、海岸の砂浜からなる一周12キロを15周、180キロを走破するもの。

純モトクロスとはちがって、モトクロスカーばかりか、スポーツ車、スタンダードのトレール車など700台(うち米人60人)が一団となって大砂塵の中に熱戦を展開、しかし完走車は、わずか81台というハードなハードなレースとなったものです。

ミス・ヤマハトレール

メイトに乗ったカワイコちゃん、日本でも最近では珍らしくありませんが、美人とビッグトレールの組み合わせとなればこれはまた人目をひきます。

この美人はオーストラリアの都市メルボルンに住む21歳のビビアン・ポッターさんです。彼女の乗っているのは、彼女自身のRT三六〇です。ビビアンはミスヤマハであると同時にミス・メルボルンでもあり、今年度のミス・オーストラリアコンテストに参加する予定です。なおこのコンテストは小児麻痺救済のための資金援助作りをも兼ねているとのことです。



巡航見本市船

『新さくら丸』に 展示コーナー設置



日本の産業を主体に、最新の日本の姿を世界に正しく紹介するためのものとして、かねてより建造がすすめられていた巡航見本市専用船「新さくら丸」（一万三千トン）がこのほど竣工しました。

船内には三千四百平方メートルにおよぶ展示場が設けられてあり、各界の一流企業の代表的な製品が展示、紹介されています。ヤマハもこの「新さくら丸」の役割に協力、主要製品を出品展示しました。

写真は竣工なった「新さくら丸」と、ヤマハ製品の展示コーナーです。

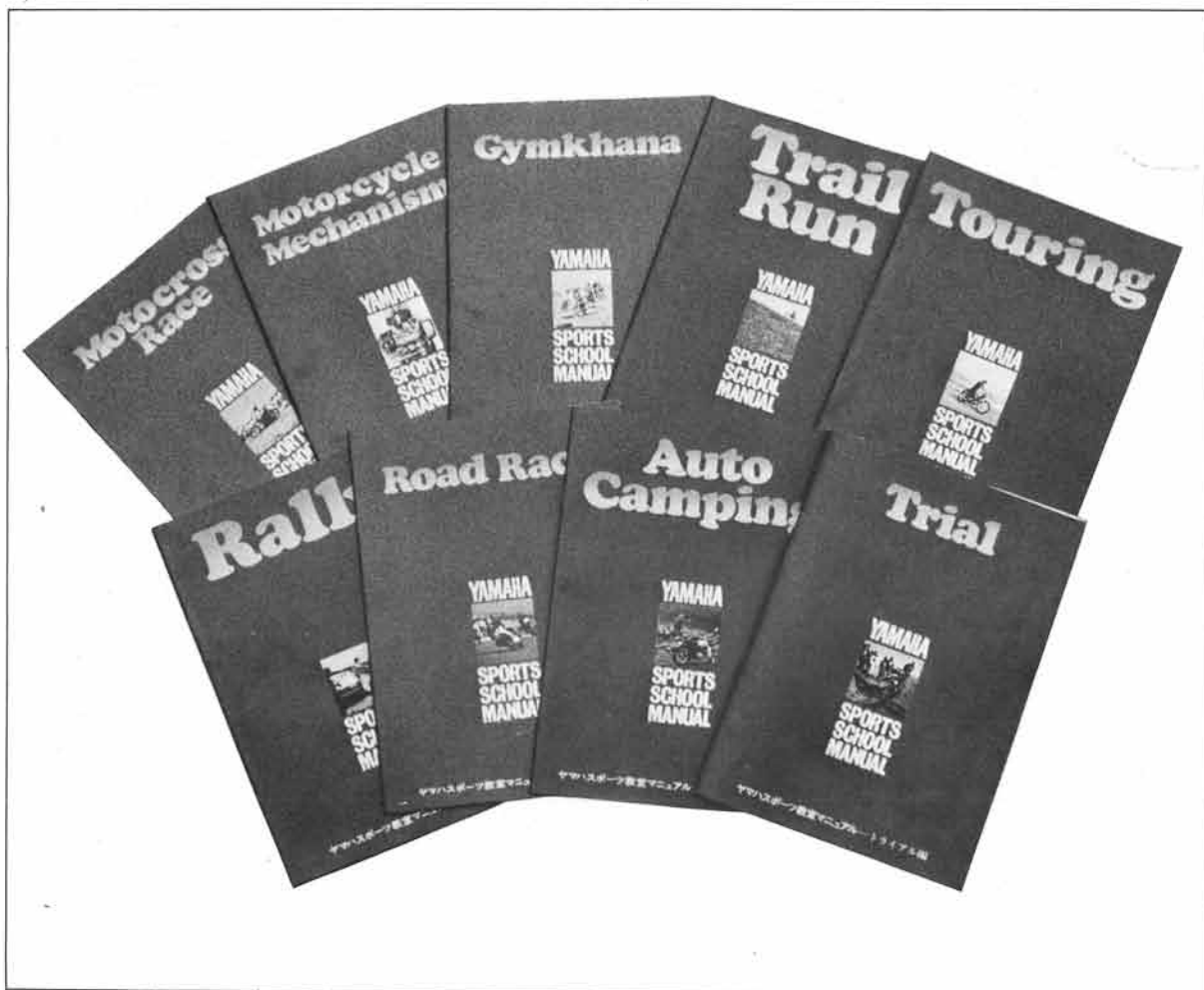
● お店のお客さまに、行事の開催に

ヤマハスポーツ教室マニュアルを ご利用ください

限りなくモータースポーツの世界をひろげるヤマハが、各種のモータースポーツとモーターサイクルメカニズムをもうらしておくりするヤマハスポーツ教室マニュアルは、これから新しくモータースポーツの世界にとびこもうという人にとって最適の入門書としておすすめできるものです。またお店の行事の参考書としてもすぐに役立つ内容となっております。ぜひご一読のうえお店のお客さまにおすすめください。

刊行種目は「モトクロス」、「ロードレース」、「トライアル」、「ラリー」、「ツーリング」、「トレイルラン」、「オートキャンプ」、「ジムカーナ」、「モーターサイクルメカニズム」の9巻で、各種競技の歴史や実施の方法、見どころ、楽しみ方など、もり沢山の内容が収録されています。

各巻いずれもB5判、2色刷りで、頒布価格は300円です。くわしくは担当のセールスマンにおたずねください。



どこでも免許教室が開ける 交通ルール指導用ボード

●お店に1セットお備えください！

車の模型や道路標識がピタッと張りつく交通ルール指導用ボード。交差点の通行の仕方や通行区分、追越しのルールなど、おぼえにくい問題もスラスラと理解できます。

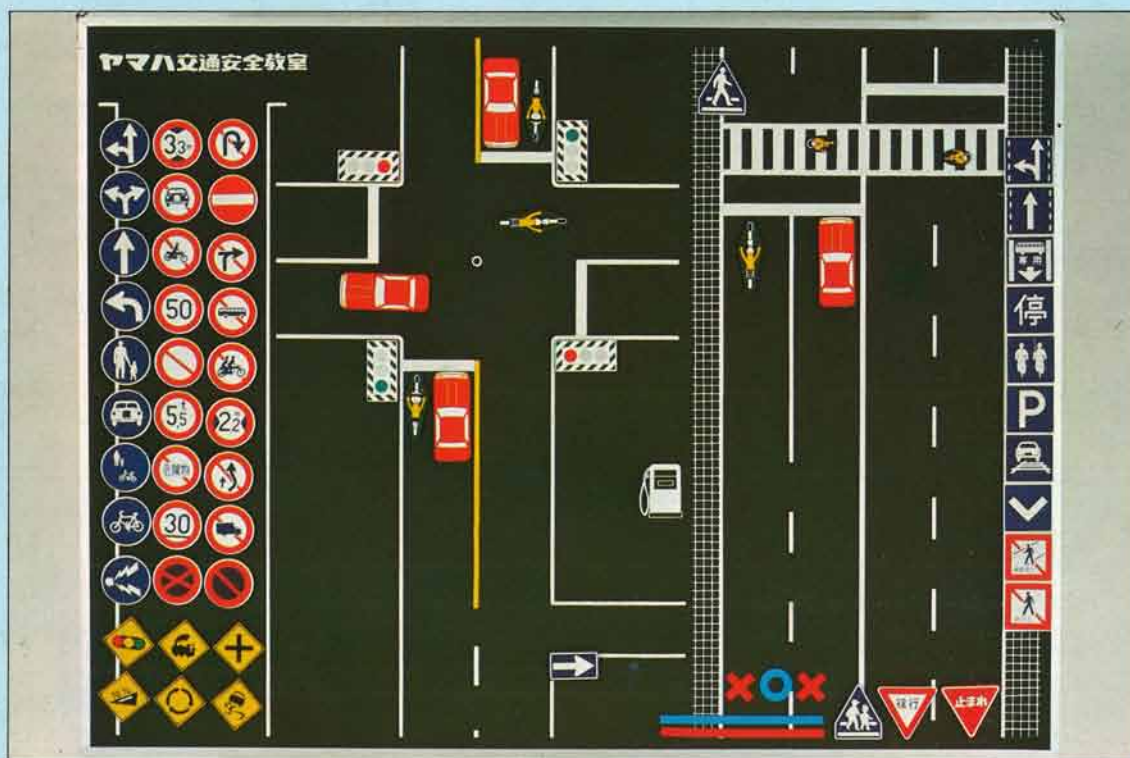
免許を取りたいというお客さまが1人でも2

人でもあったとき、あるいは、新しい交通ルールを勉強したいというお客さまがあったとき、この指導用ボードを掲げれば、いつでもどこでも教室に早変わり。あなたが先生になって、親切に教えてあげられます。

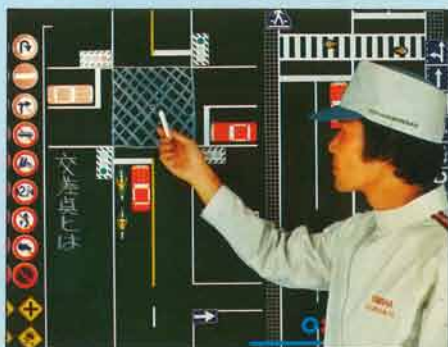
〔付属品〕 ・車や歩行者の模型・道路標識・信号・補助ライン・矢印

〔お申込先〕 ヤマハ営業所、販売会社、特約店をつうじて、予約をうけたまわっております。

〔頒 価〕 30,000円



ボードの大きさは120×90cmでスチール製。右左に道路、中央附近に交差点の図示がプリントされています。うら面はふつうの黒板として使えます。



・白墨を使ってこのように要点を記すことができ、交通標識や自動車や二輪車、青、赤、黄、白のラインは磁石式ですので移動、取外しは簡単です。



・標識類その他のサインは専用の収納箱におさめるようになっています。大きさは23.8×32.7×8.1cmです。



・この交通ルール指導用ボードがあれば、好評の免許教室がさらに充実されます。両面が使えるのでその応用範囲は広く重宝です。